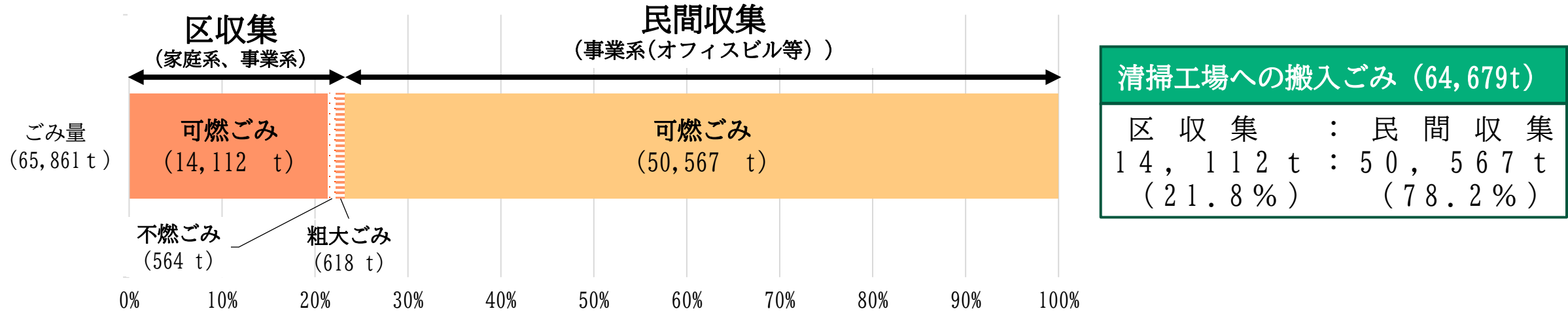


ごみ量データの分析

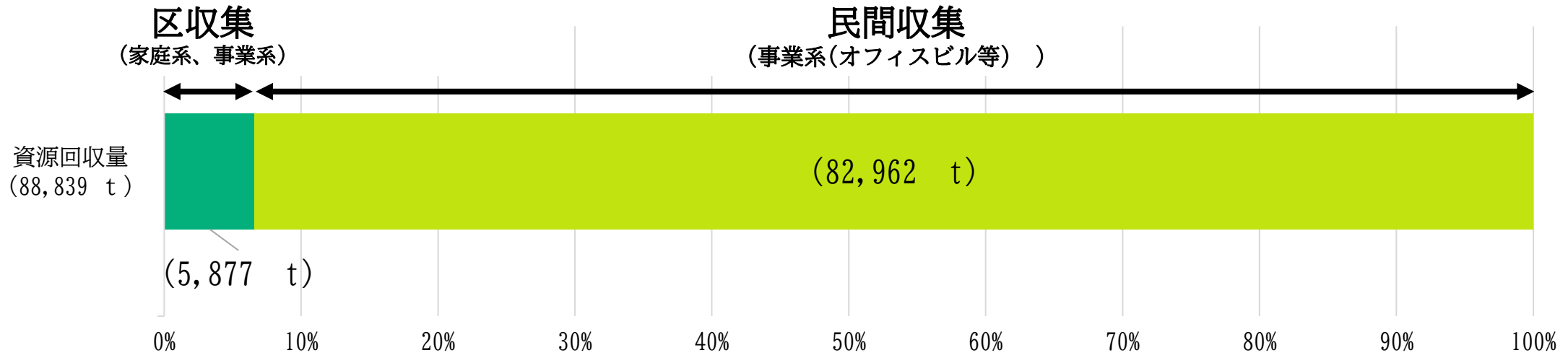
令和6年9月6日
参考資料

1 ごみ量・資源回収量（令和4年度）

(1) ごみ量



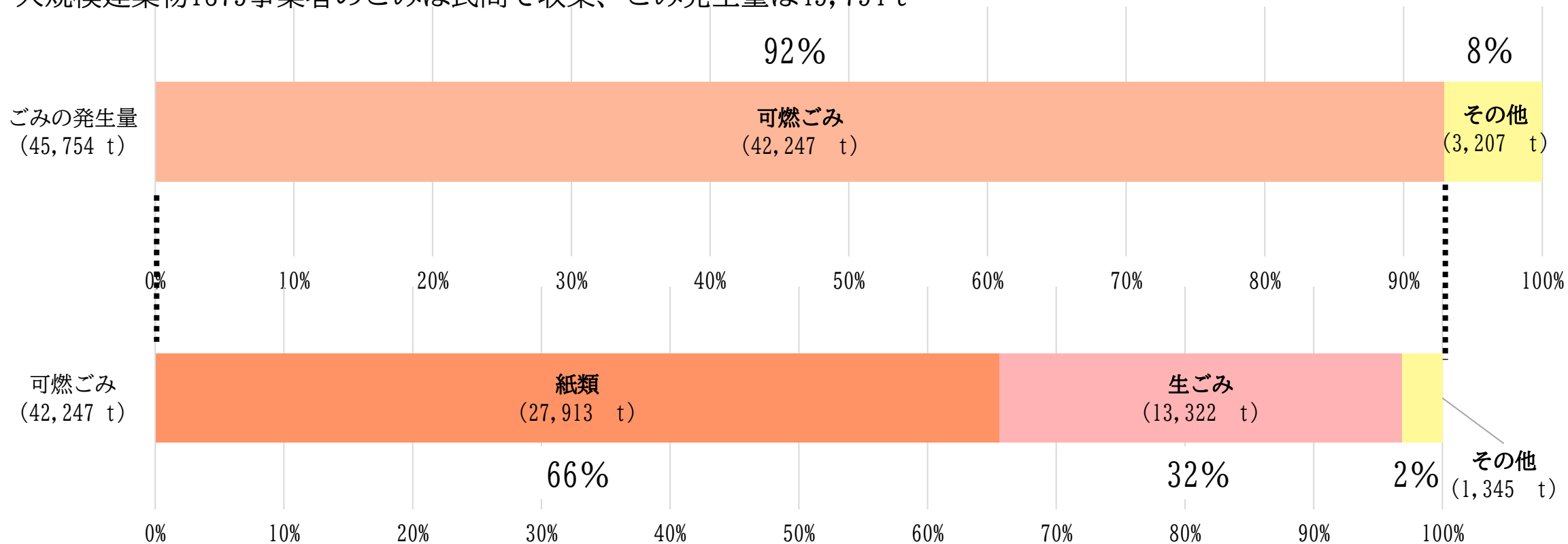
(2) 資源回収量



2 大規模建築物※1のごみの発生量・再利用量の分析

〔※1 延床面積1,000㎡以上、1,875事業者〕

大規模建築物1875事業者のごみは民間で収集、ごみ発生量は45,754 t



💡ポイント

- 千代田区の可燃ごみは民間で収集する割合が78%を占めている。(区収14,112 t、民収50,567 t)
- 区内の民間収集する可燃ごみ50,567 tのうち、1875事業者で42,247 t (84%) を占めている。
- 1,875事業所 (42,247t) から排出される可燃ごみのうち、**紙類 (66%)**、**生ごみ (32%)** の量が多いため、まずはこれらの発生抑制を進めることが重要である。

3 大規模建築物※1における紙類・生ごみ排出量の建築種類別内訳

※1 延床面積1,000㎡以上
1,875事業者

	(計)	オフィスビル	店舗ビル	ホテル・結婚式場	学校	その他
(計)	45,754t (100.0%)	29,982t (65.5%)	3,006t (6.6%)	7,729t (16.9%)	1,680t (3.7%)	3,357t (7.3%)
紙類	27,913t (100.0%)	19,997t (71.6%)	1,446t (5.2%)	3,905t (14.0%)	1,033t (3.7%)	1,532t (5.5%)
生ごみ	13,321t (100.0%)	7,712t (57.9%)	1,316t (9.9%)	3,334t (25.0%)	182t (1.4%)	777t (5.8%)